

地域公共交通確保維持改善事業(新モビリティサービス推進事業)・事業評価総括表

令和4年3月31日
九州運輸局

評価対象事業名: 日本版MaaS推進・支援事業

①補助事業者	②事業概要	補助事業者における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		③事業実施の適切性	④目標・効果の達成状況	⑤事業の今後の改善点	評価結果	
宮崎県におけるMaaS実行委員会	JR九州列車と宮崎交通バスの結節性向上のためのフィジカル面の整備に合わせてMaaS連携基盤システムを改修し、ソフト面とハード面の両面からシームレスな移動の実現を目指して取り組んだ。 また、対象エリアのJR九州の8駅に、MaaSアプリで販売するデジタルチケット上に表示するQRコードを読み取る端末を設置し、デジタルチケット有効性判定の自動化によるキャッシュレス決済の推進、移動関連データの収集を実施した。 いずれの事業も、今後はアンケート調査を実施し、利用者の声に基づいた評価を実施する。	A 交付申請時の計画通り、事業を適切に実施している。	A ・アプリの利用満足度 70%以上:: 今後アンケート調査により評価 ・アプリによるルート検索回数 延べ5,000回:集計中 ・デジタルチケットの販売枚数 1,000枚:集計中 ・宮崎地区におけるデジタルチケット利用者の利用実績データの把握(50%以上):集計中 ※当初の定量的な評価に加え、アンケート調査による定性的な評価を実施予定。	今後は、アンケート調査等で得られた利用者の声に基づき、MaaS連携基盤システムやQR読み取り機の必要な改修を実施し、ユーザーインターフェースの向上に努めていくとともに、展開エリアの拡大を検討していく。	指標を利用満足度や利用実績把握とし、アンケート調査により、MaaS導入の利用者の満足度向上に取り組まれていることを評価します。 これからの効果検証にしっかりと努め、利用実績を分析し、そこから対応策に繋げていくことで、シームレスな移動と利用者の利便の増進を実現することを期待します。	

地域公共交通確保維持改善事業(新モビリティサービス推進事業)・事業評価総括表

令和4年3月31日
九州運輸局

評価対象事業名: 新型輸送サービス導入支援事業(AIオンデマンド交通の導入)

①補助事業者	②事業概要	補助事業者における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		③事業実施の適切性	④目標・効果の達成状況		⑤事業の今後の改善点	
熊本県玉名市	玉名市小田・梅林地域を運行する乗合タクシーにおいて、AIオンデマンド交通を導入する。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、概ね適切に実施された。	A これまでの玉名市小田・梅林地域の乗合タクシーでは、予約後後にタクシー事業者が運行ルートを決めて運転手に指示書(紙)を渡して運行していたので、予約締切時間を「出発1時間前まで」としていた。AIオンデマンド交通の導入に伴い、市の予約受付担当者が使用するPCから運転手の車載端末(タブレット)に運行ルート等のデータを送信できるようになったため、予約締切時間を目標どおり「出発30分前まで」に半減させることができ、利用者の利便性の向上に繋げることができた。	小田・梅林地域に導入している乗合タクシーの運行エリアを、令和4年4月に玉陵校区(小田・梅林・玉名・月瀬・石貫・三ツ川地域)に拡大する。また、令和5年4月には天水地域の乗合タクシーにAIオンデマンド交通を導入し、将来的には岱明地域(滑石・岱明地域)および横島地域(大浜・豊水・横島地域)の乗合タクシーにも導入する予定である。	評価の指標を乗合タクシーの予約の締切時間とし、利用者利便の向上に繋がっていることを評価します。引き続き利用者のニーズの把握や利用状況の分析により、利用者の利便性向上となる取組の実施を期待するとともに、効果的・効率的なサービスが提供されることを期待します。	

地域公共交通確保維持改善事業(新モビリティサービス推進事業)・事業評価総括表

令和4年3月31日
九州運輸局

評価対象事業名: 地域交通キャッシュレス決済導入支援事業

①補助事業者	②事業概要	補助事業者における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		③事業実施の適切性	④目標・効果の達成状況	⑤事業の今後の改善点	評価結果	
宮崎県におけるMaaS実行委員会	デジタルチケット有効性判定を自動化することで、完全なキャッシュレスを実現し、お客さまの利便性を向上させることを目的に、MaaSアプリで販売するデジタルチケットにQRコードを表示させる機能を実装し、駅に設置するQR読み取り機で、アプリ上に表示するQRコードの読み取りを行う取り組みを実施した。今後は、アンケート調査により、利用者の声に基づいた評価を実施する。	A	交付申請時の計画通り、事業を適切に実施している	A ・宮崎エリアで発売中のデジタルチケットへのQRコードの実装(JR線関連チケットの100%):達成 ・宮崎地区におけるデジタルチケット利用者の利用実績データの把握(50%以上):今後集計予定 ※当初の定量的な評価に加え、アンケート調査による定性的な評価を実施予定。	今後は、アンケート調査等で得られた利用者の声に基づき、ユーザーインターフェースの向上に努めていくとともに、他のデジタルチケットへの機能実装とQR読み取り機の導入エリア拡大を検討していく。	目標値を実装率と利用実績把握とし、公共交通のキャッシュレス決済の利用促進に取り組み、目標を達成見込みであることを評価します。また、今後予定されているアンケート調査により、利用者満足度向上に取り組みされていることを評価します。今後の課題が着実に解決されることにより、利用者の利便が増進することを期待します。
熊本都市バス株式会社	共通定期制度導入に向けた熊本地域振興ICカードへの機能追加、及び共通定期売上分配サービスのシステム改修を実施する見込み	A	事業が計画に位置づけられたとおり、概ね適切に実施される見込み。	・4/1より実施のため、現時点で目標値の達成については不明。5社・熊本市内5方面を中心に複数事業者が競合している路線で定期券の共通利用化が実現見込み。車両台数では500台規模。	目標値の達成状況が見極められてから判断する	目標値を利用率としておりますが、今後の効果検証に努めていただき、利用者の分析により、そこから対応策に繋げていくことを期待いたします。また、今後の改善点を着実に解決されることを期待します。